

目 次

はじめに	4
提言の背景 ―現状―	4
提言の趣旨	5
提言のテーマ	6
 第一部 子供を核とした交流	 8
第一章 子供間交流の枠組みと課題	10
第二章 交流方法	12
(1) スポーツ交流	12
(2) 子供たちからの国際交流	15
(3) キッザニア浜松	20
第三章 子供間交流の成果と浜松の未来	26
 第二部 遊(あそび)を核とした交流	 エラー! ブックマークが定義されていません。
第一章 森里湖(もり・さと・みずうみ)のまち、浜松	エラー! ブックマークが定義されていません。
新浜松市・環境遊学都市構想	エラー! ブックマークが定義されていません。
第二章 検証“釣りの聖地・浜松”	エラー! ブックマークが定義されていません。
検証一. 恵まれた自然条件～ひとつの市でここまでできる～	エラー! ブックマークが定義されてい ません。
検証二. 恵まれた産業条件	エラー! ブックマークが定義されていません。
検証三. 釣りへの関心度	エラー! ブックマークが定義されていません。
参考資料 浜名湖なんでも釣り大会・参加者アンケート	エラー! ブックマークが定義されていません。
第三章 きっかけづくりは“全国的にも例を見ない釣りイベント”から	エラー! ブックマークが定義されて いません。
(1) キーワードは“転戦”	エラー! ブックマークが定義されていません。
(2) 釣りイベントプラスαによる広がり	エラー! ブックマークが定義されていません。

第四章 そして、更なる可能性へ..... エラー! ブックマークが定義されていません。

(1) 釣りから始まる、親と子のコミュニケーション ” 釣り堀プラン” ..エラー! ブックマークが定義されていません。

(2) 釣りの聖地に必要な施設や環境づくりエラー! ブックマークが定義されていません。

(3) まず市内経済の発展、そして外部発信へ.....エラー! ブックマークが定義されていません。

おわりに エラー! ブックマークが定義されていません。

はじめに

提言の背景 ―現状―

浜松市は平成 17 年 7 月 1 日に 12 市町村が合併して人口約 82 万人、面積は約 151 千 ha(全国第 2 位)となり、平成 19 年 4 月 1 日には、政令指定都市へと移行することも決まっています。

広域化した浜松市は海・河・湖そして山と全国でも類を見ないほどの自然資源を持っていると同時に合併以前の旧各市町村では昔からの風習、文化・伝統を持っているため様々な行事が行われる特色のある街となっています。また、ブラジル人をはじめとする外国人が多く、登録人数は平成 18 年 4 月 1 日現在で約 3 万人(全人口の 3.8%)と国際色豊かです。中でもブラジル人が多く 1 万 8 千人(外国人登録数の約 60%)で全国の市町村の中では 1 番の登録数となっています。

企業名	所在地	品目
スズキ	静岡県(子) 浜松市	自動車
ヤマハ	静岡県(子) 浜松市	楽器
ホンダ	静岡県(子) 浜松市	自動車
日産自動車	静岡県(子) 浜松市	自動車
ヤマハマリン	静岡県(子) 浜松市	ボート
大和証券	静岡県(子) 浜松市	証券
ユダカ印刷	静岡県(子) 浜松市	印刷

(平成 18 年 10 月 2 日付中日新聞より抜粋)

産業を見ますと工業、商業、農業、水産業、林業等様々な分野で展開しています。工業では製造品出荷額が 26,167 億円で全国 5 位となっていますが生産業大手のいくつかの企業が相次いで、拠点になる工場を浜松市以外に移すと表明しています。

農業では農業産出荷額が 548 億円で全国第 2 位となっています。水産業は年々漁獲量が減り 20 年前の約 50%となっています。林業においては浜松市の面積の約 68%が森林です。しかし山間部の過疎化、高齢化が進み林業従事者が減っているため森林が荒れ始めています。

商業は郊外への大型店の進出により、旧市町村の従来からあった商店街は活気をなくし、旧浜松市だけを見ても 5 年前の松菱倒産後のあとが決まらず、イトーヨーカドー浜松駅前店やビオラ田町のジョーシン電気の撤退など、様変わりしています。

提言の趣旨

合併した浜松市は自然が多く様々な文化、産業を持っている反面、広域化した分、旧市町村間の意識や考え方、生活について隔たりがあり市としての一体感が感じられません。

今年度の提言では、旧市町村が長年かけて作り上げてきた文化・伝統は守りつつ新市としての一体感を感じられるようなまちづくりを提言していきます。

まず、一体感を感じられる街とはどのようなものでしょう？それは先ず浜松に住む人々が同じ価値観を共有する事ではないでしょうか。

先ず価値観を共有するためには、お互いが知り合うことが必要となります。そこで今回は「交流」をキーワードとして提言を考えました。



提言のテーマ

上記を踏まえ、今年度のテーマは

『新浜松市の遊和』としました。

この「遊和」とは造語です。交流をキーワードとして考えると、その取り組みには様々なアイデアが考えられます。

平成 18 年 4 月より始まった今年度の「まちづくり政策委員会」では 4 月の例会、そして同月に市会議員の方々と交流会を行いその中で色々な意見を出して頂きました。

それらをまとめてみると大まかに「イベント・スポーツ」、「観光」、「行政」、「産業・物産」、「福祉」、「その他」と分ける事ができました。そしてこれらの意見の中から私達青年経済人としての立場から考えられる、まちづくりを目的とした交流について今回は「子供を核とした交流」、「遊(あそび)を核とした交流」の 2 つの方向を考えました。テーマの「遊和」は通常は「融和」と書きますが、今回はイベント(遊び)を踏まえた交流を考えたため、あえて「遊和」と致しました。



第一部

子供を核とした交流

第一章 子供間交流の枠組みと課題

現在の父母世代が子どもの頃、浜名郡可美村は、浜松市の中に位置し、その後平成3年5月に合併しましたが、いまだに"可美村"という意識が強く残っています。それと同様に、平成17年7月の12市町村による合併でも、旧浜北市は浜北、旧天竜市は天竜、その他に旧引佐郡・旧磐田郡・旧浜名郡というように、浜松市という実感がないと思われます。

浜松市がひとつになるには、まず、子ども間の交流を深め、互いに理解し、信頼関係を一つ一つ築いていくことが近道であると確信しています。

浜松商工会議所青年部は、次世代の浜松市を担う子どもたちによって、共に何かを"行う・作る・遊ぶ"等の交流を通して、人と人との信頼関係を構築し、活力あふれる政令指定都市を実現させることを目指しています。

街の子どもたちと山村の子どもたちが、自然体験、街中の危険(交通事故、犯罪等)などを互いに学びあうことによって、危機管理意識の向上につなげます。



(自然体験例)



(浜松市内交通危険箇所例 元城小近く)

昨今、小学生や中学生のいじめや自殺が起こっています。そこで子どもたちに、同世代の様々な地域の出会いを通じ、新たな発見や環境の違いを身をもって体験させることによって、広い視野で物事を考える力を身に付けさせ、ポジティブかつ思いやりの心を持つ次世代の若者を育てることを目標としています。

浜松市を発展させるも衰退させるも、バトンを引き継ぐ若者(現在の子どもたち)にかかっています。そのため、我々青年部は、子どもの視点に立ち、どのような交流方法が効果的か考え、具体例を第二章で提言します。



第二章 交流方法

(1) スポーツ交流

街づくりの基本は、人づくりが最も重要な課題といえます。ところが、少子化に歯止めがかからず、現状では、学ぶ意欲の低下、体力の低下、ゲームに熱中して友達と遊ばない子供たちの増加、生活習慣病予備軍の増加、ストレスを抱えてキレやすい子供の増加など、様々な問題が生じています。

こうした、子供たちの教育に係る問題は、地域と学校、地域と家庭そして行政が連携して解決しなくてはならない問題です。親世代についても、地域の活動に参加する機会が減少し、地域との関わりが疎遠になりつつあるといえます。子供を核とした交流によって、子供たちの相互理解を深めるだけでなく、地域性の異なる親世代の理解を深めることにもなります。

スポーツは人生を豊かに充実させ、明るく活力に満ちた地域社会の形成のために大きく貢献するものです。

そこで、スポーツによる地域間の交流を提案します。

- ① 住民相互の交流が深まり、地域の一体感や活力が醸成されると同時に子供たちの、地域へのアイデンティティが高まり、浜松市への定住志向が高まります。
- ② フェアプレイの精神が養われ、青少年の健全育成が図られます。
- ③ ストレスの発散により、生活習慣病の予防になります。



いろいろなスポーツの中でも、例えばサッカーであれば下記の理由により有効と考えられます。

- ① 県内でも盛んなスポーツで、競技人口も多く、ルールが比較的単純でわかりやすい。
- ② 特別な道具が必要なく、正式な試合でなければ、少しのスペースでもできます。
- ③ Jリーグなど上位組織だけでなく、下部組織も充実しています。
- ④ ブラジル人を始め、世界の人々との国際交流もできます。

具体的な取り組みとしては、次の項目を考えています。

- ① 地域の人が気軽に参加できるスポーツイベントの開催。
市民が大会の企画、運営に携われるようにして、市民の活力を高める。
- ② 市の施設を利用したスポーツ合宿の開催。
市内の地域間交流だけでなく、他県等からの合宿客も取り入れ、地域の食材やお土産を紹介し、観光ビジネスにつなげます。

③ 地元各大学との連携。

大学の持つ知的、人的資源を活用するため、教職員や学士が容易にイベントに参加し、取り組めるような環境や仕組みをつくります。公開講座などで、専門の教職員だけでなく、学生にも指導してもらうことで、様々なメリットが考えられます。

スポーツをそれぞれのレベルで楽しむことによって市民の連帯意識が高まり、地域コミュニティが活性化することが期待されます。

(2) 子供たちからの国際交流



浜松市は外国人登録者数が 3 万 722 名 (人口の 3.8%)
おり、ブラジル人登録数は日本一です (平成 18 年 4 月 1 日
現在)。ちなみに隣の湖西市は 3,597 名 (人口の 7.9%)・豊橋
市が 1 万 8,577 名 (人口の 4.9%)・他磐田市・袋井市・掛川
市・菊川市と、この地域は、よく言えば工業の町が続く日本
有数の国際都市となっています。

市内の至る所で普通に外国語 (主にポルトガル語) が使わ
れる風景をよく見ますし、行政としても義務教育レベルでは多
くの配慮をしているようです。現実には身近な隣人である最大の
ブラジル人コミュニティと日本との交流もまだまだ改善の余地
はあるのではないのでしょうか？

ブラジルは近年 BRICS¹ (ブラジル・ロシア・インド・チャイナ)
の中の一国として脚光を浴びています。地理的に九州・沖縄
が東アジアの玄関口として中国や韓国との交流を深め、また
北海道・日本海側の地域がロシアとの関係を深める中で、浜
松は日本の中でブラジルと最も交流がしやすい立場に有るは
ずですし、市民としてもこれから国際交流の意識を高める必
要があるでしょう。

また、浜松地域には「光技術関連産業集積促進特区」とし
て外国人研究者の受け入れ促進・外国人入国・在留諸申請
優先処理が進められています。

1. 経済発展が著しいブラジル (Brazil)、ロシア (Russia)、インド (India)、中国 (China) の頭文字を合
わせた 4 ヶ国の総称。

研究者の受け入れについては、これまでの生産現場とは違う面での国際交流も検討が必要ではないかと考えます。

さて、ものづくりの街と言われている浜松市ですが、大規模製造業者の相次ぐ移転に伴い、外国人労働者の働く場所が失われつつあるのが、現状です。

たとえばジュビロ磐田のアジウソン監督やデイドハーフナー選手などが名古屋から通勤していました。

なぜでしょうか？

浜松地区には、一部ブラジル人を対象にした学校はありますが、国際的に認められた「インターナショナルスクール」がありません。

せっかく外国からきた優秀な技術者や研究者・プロスポーツ選手が浜松の地に滞在しようとしても、子どもたちが安心して教育を受ける環境は不十分です。家族のことを考えると浜松には住めないというのが現状です。



1-1. インターナショナルスクールについて

インターナショナルスクール (International School) とは、多様な国籍、民族の学習者のための教育機関を言います。通例、特定の国に依存しない教育課程を用い、初等教育や中等教育を行う教育機関を指します。

一方、国際的な教育機関であっても、特定の国籍や民族を対象とするものは、ナショナル・スクール (外国人学校・民族学校) と呼ばれ、インターナショナルスクールと区別されます。浜松に多くあるブラジル人学校はナショナルスクールと定義されるようです。

1-2. 魅力・メリット

①. 授業や周りとのコミュニケーション

学校生活そのものがすべて英語で行われるために、海外留学と同等の英語力が身につくことでしょう。

②. 英語圏の文化も吸収できます。

様々な国の子どもたちが集まってくるのがインターナショナルスクールですので、一般的な日本の学校に通うのとは、大きく異なる感覚を得ていくはずです。

国籍や人種などにとらわれることなく豊かな人間性を形成でき、偏見の少ない国際的な感覚が身につきます。



③. 自由な風土

日本の学校に比べて、細かい規則、規定は無く、個性が尊重されるような自由な風土があります。

1-3. 問題点・デメリット

①.日本の義務教育を受けない

今現状で、考慮しなければならない点としては、多くのインターナショナルスクールは、日本の法律上、義務教育資格とは認められていないということです。

ただ最近では、規制が緩和されたとはいえ、一部のインターナショナルスクールを除いては、まだまだ高校の卒業資格が取得できません。海外の学校へ進学する上では何の問題ありませんが、日本の学校に途中から進学する場合は、厳しいのが現状です。

②.費用が高額

インターナショナルスクールは、いわゆる「学校」と違って、日本にある外国企業がお金を出し合って運営しているので、一般の学校に比べて費用が高額になっています。

③.日本語や日本の文化を学ぶにくい

かなり英語漬けで成長していくことになりますので、比較的日本の文化に触れにくいかもしれません。

日本の文化に関しては、子どもがスポーツや芸術といった分野で色々と習得していくと思いますが、日本の教育を受けないため、日本語の使い方や漢字の読み書きなどに関して苦手意識を持つ可能性があります。



④.日本人は入学しにくい

在日外国人の子どもが最優先であり、もともと募集枠が少ないため入学には順番待ちという状況がよく見られます。

日本人の場合は帰国子女が優先となります。

入学を希望する場合は、その目的をはっきりさせる必要があるようです。

1-4. 今後の方向性

個性重視のプログラム・英語教育の充実・世界で活躍したいと夢を持っている子どもたちや、国際的な視野を子どもに与えたいと考える方には、インターナショナルスクールで学ぶ事は希望をかなえる近道になるかもしれません。

子どもたちの教育環境を発展させることは国内外から優秀な技術者を集めることに寄与し、ひいては浜松市域の発展に繋がります。

浜松市が国際交流都市として発展することを目指し、子どもたちが国際感覚を身につける場、インターナショナルスクールの設置・誘致を提言します。

資料引用

- ・Wikipedia
- ・国際結婚@情報ステーション
- ・インターナショナルスクール東京ガイドブック



(3) キッサニア浜松

将来を担っていく子供たちに、浜松市についての知識を持ってもらうと同時に、可能性を感じてもらう必要があります。

また、浜松市といえば「ものづくりのまち」としての顔を持っており、多くの魅力ある企業があります。しかし、どうしても子供たちの行動範囲では限界があり、自分の学区以外の「企業＝産業」を知る機会というのは限られるのが現状です。そこで、「ものづくりのまち浜松」に住む子供たちに、「ものづくり＝産業」をキーワードにして、浜松市を感じ、体験してもらいたいと考えます。

最近、製造業の浜松離れなどといった報道もありますが、特色・魅力ある企業は浜松にはまだまだ多く有ります。ただ、そのような企業を知る機会というのは、我々大人でも限られていて、ましてや子供たちにとっては、前述のとおり、その機会は狭まると思われます。また、産業を知るためには、「ただ見る」だけでは、本当の意味での産業を知ることはできません。やはり、「実際に体験する、働く」ことが、産業を文字通り肌で感じるためにも必要なのではないのでしょうか？その意味では、小学校の活動として行っている工場見学等もどちらかという、「見る」という視点が強く、「体験する」という要素が薄いのだと思われます。やはり、子供たちの社会勉強も兼ねて、実際に大人たちと同じ社会（企業）で働いてみる必要があるのではないのでしょうか？

2006年東京に「キッサニア東京」がオープンしました。そこは、子どもたちが好きな仕事にチャレンジし、楽しみながら社会のしくみを勉強できる、日本発のエデュテインメント（エデュ

ケーション(学び)とエンターテイメント(楽しさ)を組み合わせた造語)タウンです。大人のように、いろいろな仕事をする事でキッズ(専用通貨)をもらい、買い物や習い事などに使えます。キッザニア東京の中には、消防士、キャビンアテンダント、モデル、医師等約70種類の仕事を体験することができます。

実物そっくりのお仕事体験

各パビリオンでは、こども達の年齢や興味に合わせて、さまざまな種類、難しさのアクティビティ(具体的な仕事や体験)が用意されています。パイロットになって飛行機を操縦、アナウンサーとしてニュースを読む、消防士になって消火活動、幼稚園の先生になって小さい子の世話をするなど、大人になりきって遊ぶことができます。



道具からユニフォームまで臨場感たっぷり

本物そっくりなお店や施設が立ち並ぶキッザニアは、まさにこどものための街です。もちろん、大きさも約2/3のこどもサイズ。病院、消防署、ビューティーサロン、銀行をはじめ、ラジオ局、テレビ局、ピザショップ、劇場など、楽しい街並みがこども達を待っています。働く前には、そのお仕事に関連したお話や働く上でのルールが説明され、こども達一人一人に役割が与えられます。ユニフォームに着替え、スーパーバイザーからの説明をよく聞いて、いざお仕事スタート。



働けば、お金が手に入る。自分で貯めたキッズでお買い物！

働いたらキッズをもらってお買い物をしよう！お仕事を体験したこども達には、キッザニア独自の通貨"キッズ"でお給料が支払われます。キッズを使っていろいろなサービスを受けたり、ショッピングをすることもできるのです。



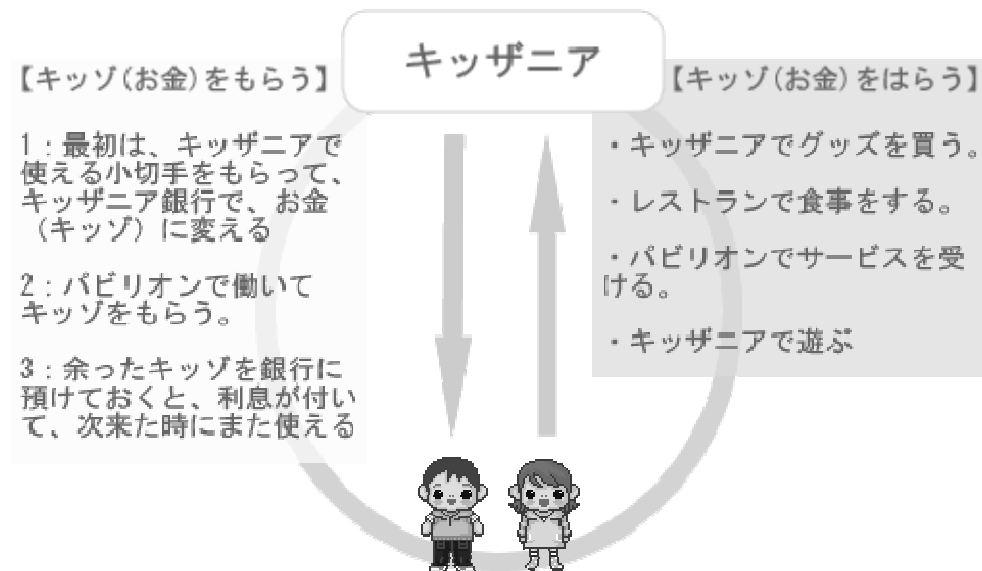
社会を体験する。学ぶ

こども達は遊びを通して、さまざまなことを学びます。キッザニアは、お仕事体験をベースとした社会学習の場といえるでしょう。遊びの中から社会のルールやマナー、経済のしくみ、将来の可能性を学んでいくことができるのです。



こども達は様々なお仕事のための社会的役割を理解したり、働くことの楽しさ・厳しさを学んだり、自立性や社会性、金銭感覚を養ったりすることができます。お父さん、お母さんは、キッザニアでの一日を通じて、お子様の楽しむ笑顔と想像力あふれる成長に目を見張ることでしょう。

キッザニアの仕組み

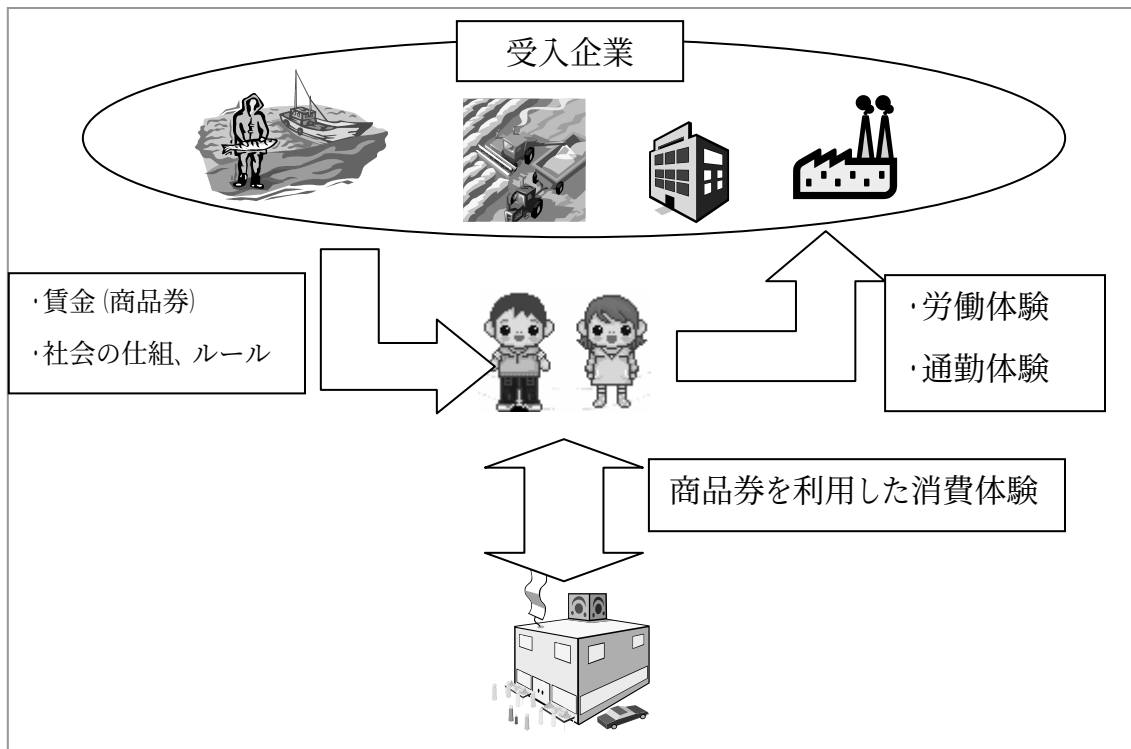


このように、キッザニア東京は、あくまで一つのビルの中の、擬似職業体験であります。その浜松バージョン「キッザニア浜松」は、浜松市で実際の企業での職業体験をすることを目的としています。

具体的な方法としては、主旨に賛同いただける企業を募集し、こどもたちの夏休み等の長期休暇のある一期間を利用して、それらの企業に実際に子供たちを派遣します。ここでいう企業とは、製造業だけではなく、農林水産業・サービス業等浜松市にある企業すべてを含むこととします。そこでは、子供たちの出来る範囲で、仕事をやってもらいます。原則、大人たちと同じ出勤時間・就業時間で、働いてもらい、通勤も体験してもらいます。企業は、働いた対価として、商品券をあげます。子供たちは、その商品券を持って市役所（又は会議所）に行けば、賛同いただいた企業の商品を購入することができるようにします。

この様に、「実際に会社で働き、その対価をもらい、それにより消費する」という大人にとっては当たり前の社会での活動をこどもに体験してもらうことが、この提言の大きな目的です。

<キッザニア浜松イメージ>



「キッザニア浜松」を実現することにより、子供たちは、当然多くの産業を体験する機会を持つことが出来ます。実際に、その企業にて働くことにより、通勤による広域化した浜松市も併せて知ることが出来ます。そして、企業での経験は将来の就職選択時にきっと役立つことと思われれます。また、短期間でも企業で働くことによりルールの重要性や社会の厳しさ等を肌で感じ、今後の人間形成の面からも役立つかと思われれます。そして、子供たちが浜松の企業の素晴らしさを通じ、浜松市の魅力を感じてもらうことが、何より将来の役に立つことだと思われれます。

また、子どもたちを受け入れる企業を公表することで、社会貢献の面からのアピールにもなりますし、また、将来を担う子供たちに企業を知ってもらうことは、長期的な雇用対策の一環にもなると思われます。

そこで私たちは、キッザニア東京の浜松市バージョン、「キッザニア浜松」を提言します。

第三章 子供間交流の成果と浜松の未来

交流をテーマにしたいろいろな提言でしたが、いかがだったでしょうか？

今、この瞬間から考えて出来ることから、行政、教育関係、ボランティア団体、NPO 法人の方達の支援をいただきながら進めていかなければいけないこともあります。

もちろん、皆さんがすでに考えていたことかもしれません。

私達の幼少時代を思い出してみてください。小学校時代の友達と遊んだことや、家族を中心に育まれた兄弟、親子の絆、家庭の行事のことがあげられます。

大人になった今、知り合いと共通点を見つける会話の際に、古き良き時代のことを語れる自分がそこにいるのではないのでしょうか。人間形成の基礎となる年齢は、おおよそ小学校高学年くらいまでには、ほぼ構築されると感じています。

最近の、社会現象の様々な事件は、基本的な人と人との交流の無さからくる自分さえ良ければいい！他人を思いやることが出来ないことから、致命的な結果を生むのではないのでしょうか？「小さいときから彼は知っている、彼女は知っている」という関係を一人でも多く持つことが出来れば安心して生きていけると思います。

浜松と合併した 12 市町村との交流は、始めの一步としてではなく、相互の経済、教育、文化、芸術の流れを活発的に推進するのが、浜松商工会議所の使命であります。そして新浜松市の外堀の囲いの向こうを覗くと、東三河、南信州、われわ

れ遠州との交流(三遠南信)が必要不可欠となっています。政令指定都市浜松は、海、川、山をもつ豊かな自然をかかえながら、世界に誇る工業都市でもあり、ハイテク産業の研究者、技術者、国際色のある人間達が存在し、生活しているところです。その中で育っていく子どもたちには、勉強や遊びを通じて出来るだけ本物と多くふれあう機会を経験させたい。

物質的に豊かな時代を育ってきた我々が、実現してきたビジネス環境を、これからは精神的な豊かさを実現するための環境として活用できる時代に来ています。我々に課せられた課題は人間としての価値観を子どもたちにどのように伝えたいのか？どのような地球を子どもたちに遺したいのか？本当に生きることの喜びと辛さ、厳しさと優しさ、人としての賢さと愚かさをどのように教育していきたいのか？そういった観点をふまえ、世界のビジネスを動かせるトップリーダーを、ひとりでも多く、今の時代は必要としているのです。

そんな人材がいつも浜松から育ってくれたらいいですね。そして世界からも注目され、産業経済の発展と人間形成は浜松に学べと言ってもらえるようになればと思い、子どもを核とした交流を提言させて頂きました。

資料出典元一覧

《静岡県》	光技術関連産業集積 促進特区について (静岡県企画部)	http://www.pref.shizuoka.jp/kikaku/ki-26/documents/hikari.pdf
《企業・ その他》	キッズニア東京	http://www.kidzania.jp

